【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和7年度学校評価　結果

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：ややで十分である
D：不十分である

学校名	佐賀市立富士小学校

1　前年度 評価結果の概要	・今年度、暗唱活動や各学年の全校放送などで培った表現する力を次年度につなげ、各教科指導だけでなく、すべての活動で主体的に能動的に活動できる児童の育成を目指す。 ・SC,SSW等の専門家や児相、SSF等の外部機関との連携を密にとり小中9年間を見通した「心の教育」の充実により、更なるきめ細やかな児童生徒及び家庭支援を行い、いじめ、不登校のない学校を目指す。 ・学校運営協議会との連携について、小中一貫校富士校としてより有意義なあり方、活用の仕方を検討していく。
2　学校教育目標	地域を担う夢に向かって伸びゆく富士っ子の育成
3　本年度の重点目標	①基礎基本の確実な定着と表現する力の向上を目指し、主体的に能動的に活動できる児童を育成する。 ②子どものwell-being の実現に向けて、小中一貫校富士校として、9年間を見通した「心の教育」を充実させ、自他の命を大切にする心豊かな児童を育成する。 ③健やかでたくましい児童を育成する。

4　重点取組内容・成果指標　　5　最終評価

（1）共通評価項目

評価項目	重点取組 取組内容	重点取組 成果指標（数値目標）	具体的取組	最終評価 達成度（評価）	最終評価 実施結果	学校関係者評価 評価	学校関係者評価 意見や提言
●学力の向上	○基礎基本の確実な定着のための授業改善	○「学校の授業は『よくわかる』『勉強はおもしろい』と感じる。」に肯定的な回答をした児童80%以上 ○「私は児童に基礎学力を定着させることができた。」に肯定的な回答をした教職員80%以上	・4月末までに、児童の実態把握に努める。前期は基礎基本を図る問題を家庭学習でも出す。後期は作問にも取り組ませる。 ・年3回の「富士っ子チャレンジ」（漢字と算数の復習テスト）を実施し、児童の全員が80点以上獲得を目指す。 ・校内研究や長期休業中で基礎学力向上について意見を出し合い、授業改善に生かす。	A	・「学校の授業は『よくわかる』『勉強はおもしろい』と感じる。」に86%の児童が肯定的な回答。 ・富士っ子チャレンジテストは、繰り返し課題に取り組ませたことで3学期も90%以上の児童が合格できた。 ・校内研究や教職員間で情報の共有、教材研究を行ったことで「私は児童に基礎学力を定着させることができた。」に91%の教職員が肯定的な回答。	A	・学校は工夫しながら努力していると感じる。 ・成績2期制になり、長期休み中のサマースクール等を利用して基礎学力定着につなげる工夫も必要。
	○表現する力の向上を目指し、主体的に能動的に活動できる児童の育成に向けた授業実践	○「授業中、自分の考えを発言したり、友だちと話し合ったりしている。」に肯定的な回答をした児童80%以上 ○「児童が、自分の考えを発言したり、友だちと話し合ったりする機会を授業の中に取り入れた。」に肯定的な回答をした教職員80%以上	・児童の全員が表現の基礎となる音読集の暗唱に1学期中に15個、2学期に15個取り組む。 ・操作活動、話し合い活動、タブレットの利活用を中心に授業を進めることで、児童が主体的に活動できるようにする。 ・めあてとまとめの一体化を意識し、授業を組み立て、どの教科でも児童による振り返りを入れる。 ・全学年で研究授業を実施する。	A	・全学年で音読集の音読・暗唱に取り組むことができた。全学年2学期までに85%の児童が合格できた。 ・上学年は週4日程度授業の中でタブレットを活用した。その効果もあり、「授業中、自分の考えを発言したり、友だちと話し合ったりしている。」に95%の児童が肯定的な回答。 ・「児童が、自分の考えを発言したり、友だちと話し合ったりする機会を授業の中に取り入れた。」に81%の教職員が肯定的な回答。	A	・少人数なので競争力の低下や多くの意見をまとめる力などが育ちにくいことを懸念している。 ・表現力を高める取り組みを引き続き実施してほしい。
●心の教育	●児童が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○「友だちとぽかぽか言葉で話し楽しく遊んでいる。」に肯定的な回答をした児童80%以上 ○「児童が豊かな心を身に付ける支援を組織的・計画的に行った。」に肯定的な回答をした教職員80%以上	・全校で「いじめ・いのちを考える日」や人権教室に計画的・組織的に取り組む。 ・自分や友達のよさを見つけたり、認めたりできる活動に取り組む。（人権の木の取り組み）	A	・毎月初めのアンケートの実施日に合わせて、放送で心の教育に関わる話をした。実施したアンケートは担任が聞き取りをし、結果を職員で情報共有し児童への支援に生かした。 ・人権教室は年間3回テーマを変えて全校で実施して、児童の人権意識が高まった。	A	・児童を尊重して教育活動を行ってもらっている。 ・児童の粗雑な言動の様子を聞くことがある。間違ってることは間違っていると指導をしてほしい。
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○「学校で困ったことやつらいことがあったら、担任やその他の先生に話したり、相談したりしている。」に肯定的な回答をした児童80%以上 ○「いじめ未然防止、早期発見、再発防止のために組織的に対応した。」に肯定的な回答をした教職員80%	・毎月の教育相談・生徒指導協議会において、いじめの早期発見の視点から情報交換を行ったり、心のアンケートで見られた問題点などの共有を図ったりする場を設ける。 ・毎月の心のアンケートの結果をもとに気になる児童への聞き取りを行う。	A	・教育相談・生徒指導協議会においては、児童の現在の様子や心のアンケートからわかったことなど効果的な情報交換の場となった。 ・全児童と担任が個別に話をする時間をもつために、ぽかぽか週間を設けた。 ・「学校は、人権教育や道徳教育を通して、心の教育に積極的に取り組んでいる。」に91%の保護者が肯定的な回答。	A	・相手のことを思いやる心をしっかり耕してほしい。
	●子どものwell-being の実現に向けて、児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動の推進	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う。」に肯定的な回答をした児童80%以上 ●◎「将来の夢や目標を持っている。」について肯定的な回答をした児童80%以上	・児童の実態把握に努め、適切な評価を行う。「人権の木」の取り組みに合わせ、ほめることを意識するよう呼びかける。 ・キャリアパスポートやキャリア教育の有効な活用を図り、児童が夢をもつよう支援する。	A	・「人権の木」の取り組みでは、自分や友だちの良さを書くことで他己理解ができた。また、「感謝の木」の取り組みでは周りの人への感謝の気持ちを醸成するなど、年間を通して、児童の意識を高めた。 ・「将来の夢や目標を持っている。」に88%の児童が肯定的な回答。	A	・将来の夢をもっている児童が多いのは素晴らしい。
	○郷土を誇りに思い、地域を担う児童の育成	○「生活科や、総合的な学習の時間、俳句づくりや農業活動など地域の人々との学びを通して、ふるさと富士町の良さに気付くことができた。」に肯定的な回答した児童80%以上	・地域の資材や人材等を積極的に活用する。（各学年の人材リストを活用する）	A	・地域の資材や人材等を積極的に活用した。毎月俳句教室に加え、後期は町探検、温泉施設の見学、野菜作りなどを行った。 ・「学習を通して地域の良さに気づくことができた。」に91%の児童が肯定的な回答。	A	・地域の人との様々な活動を通して、富士の良さに気づき愛する心情を今後も学校と一緒に育てたい。
●健康・体つくり	●「運動習慣の改善や定着化」	●「外遊びや運動を進んで行い、授業以外で1日60分以上、運動やスポーツをしている。」に肯定的な回答をした児童60%以上	・各学期に1回、全校で体を動かす取り組みを行う。スポーツチャレンジにも参加し、児童の取り組む意欲を高める。	A	各学期に全校で体を動かす行事を取り入れ、スポーツチャレンジにも積極的に参加した。「外遊びや運動を進んで行い、授業以外で1日60分以上、運動やスポーツをしている」に83%の児童が肯定的な回答。今後も、全校で体力作りを進めていきたい。	A	・学校でもジョギング大会、町でもしゃくなげマラソン大会など体力増進のための活動を実施している。児童が家にこもりすぎないように支援したい。
	●「望ましい生活習慣の形成」	○入眠時刻「低学年21時まで・中・高学年は、21時半までを守っている。」児童80%以上 ○「お子さんが、入眠時刻（低学年21時まで・中・高学年21時半まで）を守るよう声かけをしたり環境を整えたりしている。」に肯定的な回答をした保護者80%以上	・小中合同で、中学部のテスト期間にすこやかチェックを行う。保護者にも、コメントをもらい、家庭でも生活習慣の改善に活用してもらう。 ・夏休みの生活を振り返り、2学期の生活へ活かす。	B	「お子さんが、入眠時刻を守るよう声かけをしたり環境を整えたりしている。」に83%の保護者が肯定的な回答。「入眠時刻を守っている。」に65%の児童が肯定的に回答。前回より上昇したが、目標値には届かなかった。今後も、家庭と連携をしながら睡眠時間の大切さを指導していきたい。	B	・朝ごはんをたべていない児童がいるのかが気になる。 ・一人一台端末を自宅に持ち帰るようになって、生活の乱れが増したように思う。 ・各家庭でどの程度、手を入れているのか気に
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	○「学校全体の業務改善のために、時間の使い方を見直したり、自分の校務分掌を同僚と共に責任をもって企画運営したりするなど、より効果的な教育活動となるよう工夫や改善をした。」に肯定的な回答をした教職員80%以上 ●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守した教職員80% ●年間20日の年次休暇のうち、1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上	・会議の内容を精選する。会議の終了時刻を会議前に出席者全員で確認する。 ・各種行事や校務分掌などに、早めに着手し、計画的・効果的な教育活動となるよう支援をする。 ・毎月個人に時間外在校等時間の実績や年休取得状況を知らせて、教職員が自身の働き方を振り返る機会をとる。	B	・「学校全体の業務改善のために、時間の使い方を見直したり、自分の校務分掌を同僚と共に責任をもって企画運営したりするなど、より効果的な教育活動となるよう工夫や改善をした。」に100%の教職員が肯定的な回答。職員の協働が活性化し、学校運営にもよい影響をもたらしている。 ・教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守した教職員95%。 ・年間年休取得14日以上の教職員54%。目標未達成。今後も計画的年休取得と業務改善の両立を目指す。	B	・大変な仕事だと思う。小規模校ならではの大変さもあると聞いている。業務については、ICTをどんどん活用するべきだと思う。
●特別支援教育の充実	○特別支援教育に関する教育の専門性と意識の向上	○「特別支援教育に関する専門性が向上した。」に肯定的な回答をした教職員80%以上	・特別支援教育に関する研修会を実施する。 ・ケース会議の開催、関係諸機関との情報を共有する。	A	・配慮が必要な児童のケース会議や、進学に向けての準備や移行支援会議をした。また、関係諸機関との情報を共有して、児童の支援に生かした。	A	・特性があると思われる児童や親への対応が難しいと思う。 ・特別支援学級でその児童に応じた支援が受けられて安心して生活できる児童もいる。

（2）本年度重点的に取り組む独自評価項目

評価項目	重点取組 重点取組内容	重点取組 成果指標（数値目標）	具体的取組	最終評価 達成度（評価）	最終評価 実施結果	学校関係者評価 評価	学校関係者評価 意見や提言
○小中連携	○「9年間の学び」を意識した小中連携による児童の育成	○合同体育大会や合同行事、相互授業参観や乗り入れ授業などを通して、児童生徒の「9年間の学び」を意識した教育活動を行うことができた。」に肯定的な教職員80%以上	・5・6年生の中学部での学習を計画的に効果的に行う。 ・小中合同協議会を年7回実施したり、合同体育大会を開催したりして、児童生徒の情報を共有し、9年間を見通した児童生徒理解を図る。	A	・中学部と連携をとり、どの学年も交流学習をすることができた。特に5・6年生は中学部への進学を見据えて中学部の行事に参加したり、学習をしたりした。 ・「合同体育大会や合同行事、相互授業参観や乗り入れ授業などを通して、児童生徒の『9年間の学び』を意識した教育活動を行うことができた。」に81%の教職員が肯定的な回答。	A	・小中とも、こまめに連絡を取り合いながら乗り入れ授業や合同体験学習など計画的に進めている。しかし、まだ物足りなさも感じる。

●…県共通　○…学校独自　◎…志と誇りを高める教育

5　総合評価・ 次年度への展望	・基礎基本の確実な定着については、今後も粘り強く指導する必要がある。教職員は、来年度も児童一人ひとりの伴走者となり、主体的に活動できる児童の育成を目指す。 ・自他を大切にする心を育てるために、小中9年間を見通した「心の教育」を継続する。特に、日頃の「言葉の使い方についての指導」を充実させ、誰もが安心して過ごせる環境をつくる。 ・児童に望ましい生活習慣を形成するため、また児童の体力増進を図るために今年度以上に家庭や地域との連携を深める。 ・次年度以降も業務効率化をますます加速させる。